

令和4年度町政懇談会記録

- 1 会議の名称 令和4年度町政懇談会（上長尾区）
- 2 会議日時 令和5年1月25日（水）午後7時から午後8時20分まで
- 3 開催場所 山村開発センター
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 上長尾区 参加住民 31名
 - (2) 執行機関 町長 藺田靖邦、副町長 秋元伸哉、教育長 山下 斉
(出席課長) 企画課長 大村、健康福祉課長 森下、農林課長 鈴木
(書記・庶務) 高齢者福祉課課長補佐 池本、農林課室長 中村、
高齢者福祉課室長 中村、支所管理局主幹 山田、
教育総務課主幹 太田
(その他) 総務課室長 向島
- 5 内容
 - (1) 行政からの報告（町長・副町長・教育長）
 - ・これからの取組みと今後のまちづくり方針
 - ・デジタル技術を活用した行政サービスの向上
 - ・町の教育方針について
 - (2) 町民の皆さんとの意見交換
- 6 発言の内容
 - (1) 事前質問に対する回答等
 - (問) 電気自動車等の普及を目的とした補助制度については、既に静岡県内のいくつかの市町で導入されているが、川根本町でも、「クリーンエネルギー機器導入促進事業費補助金」の補助対象機器に「電気自動車」購入に対する補助を加えていただくことを検討していただきたい。
 - (答) 静岡県内でも車両購入に対する補助（2万～10万円）を実施している市町があります。当町では、「クリーンエネルギー機器導入促進事業」として、

令和2年度から蓄電池設置に対する補助を追加実施しています。今後、地球温暖化対策（脱炭素化社会）の一環として検討を進めていきます。

(問) 災害時における、町内の避難所の非常電源（蓄電・発電）の確保状況を教えていただきたい。

(答) 指定避難所は11箇所あり、その内8箇所には非常電源装置を整備しています。令和5年度で残りの3箇所を整備する計画です。

各地区（集会施設等）避難地は町内52箇所を指定しています。集会所等の避難地については、自主防災会防災用資機材整備事業を利用して各区で発電機や蓄電池を整備していただいている状況です。

(問) 消えゆく茶産地・川根本町。行政の方向性として、相場に左右されず適正価格で販売するためには、川根茶のブランド戦略と、しっかりとした販路が必要と思われる。

行政として、川根茶ブランドのPR、販路開拓のために全国を走り回り、営業することにシフトしていく必要があるのではないかと。

(答) 川根茶業振興協議会事務局として販売農家やそれぞれの茶商が流通販売しやすい環境を整える活動を行い、取引先同士の強い関係を作っていきます。

(問) 小・中学校の跡地利用について、北小学校の跡地利用の進展がない状況の中で、今回の学校再編により廃校となる小・中学校跡地の具体的な活用方法は。

まちづくりを進める上では公共施設の活用は非常に重要な施策の一つであると思うが、今後どのような協議が予定されているのか。

(答) 廃校となる学校施設の利活用を検討する委員会の設置準備を現在進めています。現時点では目的を限定せずに、幅広く利活用方法を検討していきます。なお、区長連絡会、議会全員協議会、関係機関には委員会の進捗状況を随時報告していきます。

(2) 意見交換

(住民) 要望ですが、学校の跡地利用について、図書館をお願いします。

(町長) 図書館の整備については他地区でも要望がありました。学校の跡地利用については、町有財産有効活用の検討委員会において進めていきます。活用に関しては、公募も実施していきたいと考えています。

(住民) 昨年の台風による被災箇所の復旧時期について教えてください。

(町長) 道路について、町道梅高中央線で9月頃に入札を行う予定です。工事は翌年2月頃までかかると思います。河川の瀬替えなどの条件がある箇所は、濁水期にならないと工事が出来ない箇所もあります。上長尾区内の町道長松線についても、なるべく早く復旧したいと考えています。

(住民) 過疎化がすすんでいるためか、高郷地区と上長尾地区が寂しくなっています。商店がなくなるとすごく寂しく感じます。商売をやる人が楽しい町になると良いと思います。義務教育学校もできて役場もあるこの上長尾地区、高郷地区が活性化する何か良い考えはありますか。商売をする若い人に光を当ててほしいです。

(町長) 昔に比べ商店が減少しており、現在商売を続けている方は頑張っていると感じています。また、町外から来て新しいことを始める人や、自分の仕事をしながら他の事業を考えてくれている人がいて、まだまだ、様々な可能性があると感じています。

(住民) サンフロント21という地域の活性化について考えていく団体があります。ぜひ、こういった組織や県の支援を活用し、外部の意見を聴いて川根本町の活性化を進めていただきたいと思います。

学校統廃合による廃校を活用した例として、当町と状況は違いますが、西伊豆町の成功例があるので参考にさせていただきたいと思います。

また、長尾川の堰堤の土留めの下が、現在大変危険な状態であるので、対応をお願いします。

(町長) 県やサンフロント21などと関係を築きながら、地域の活性化に取り組んでいきたいと思います。

また、西伊豆町の学校統廃合の事例なども参考にしながら、委員の皆様と議論して進めていきたいと思っています。

長尾川については、現在県において工事を実施中で、先日、県島田土木

事務所川根支所長が役場に来た際、長尾川の堰堤について話をしました。その際、上長尾地内でよく崩れる箇所についても話をしておきました。すぐには施工できないところもありますが、出来ることは進めていきますので、ご承知おきください。

(住民) 地元の農業者として、農業の振興について大変期待しています。ここの茶業は無くしてならないものと感じていますので、ぜひ、次元の違う農業政策を今後よろしくお願いします。

また、令和7年に合併特例債が期限を迎え、川根本町は人口も減少しており、今後どのように財源を確保していくか町長の考えを聞かせてください。

(町長) 茶業に関しては既成概念に縛られず、取り組んでいきます。高級茶と抹茶両方の体制の中で、どうあるべきかといことを考えながら進めていきたいと思っています。

財源については、自主財源の少ない当町にとっては、依存財源は非常に大事です。こうした依存財源の動向は、国の状況によって変わることがあるわけですが、現在は少子高齢化のなかで国の財政も非常に難しい状況であることから、今後、依存財源が縮小されることも想定されます。町としては、決められた財源で運営していかなければなりません。一層の歳入の確保に向け、国等の関係機関へ陳情なども行いながら進めていきたいと考えています。様々な方面での支援等も活用しながら、小さな町づくりの運営を進めていきたいと考えています。

(住民) 公式LINEについて伺います。先程の説明でも公式LINEの登録についても話があり、今回予算4千万円を活用したLINEクーポン事業を行いました。高年齢者などでアプリを使えない人もいました。町外の人でもアプリを使える人は利用でき、使えない人は全く活用できず、不公平ではないかと思います。4千万円を投じた川根本町にとってのメリットや、町外の人々の利用、今後また実施するのかについて、どのように考えているのか伺います。

(副町長) 携帯電話の機種によってLINEクーポンが利用できない方がいたということを知っています。これについては運用を開始した中で判明したもので

あり、今後の課題と考えています。

LINEクーポンの利用をきっかけとして、LINEを使うようになったとか、スマホを使う機会が増えたという声を聞いており、一定の効果があったのではないかと考えています。

また、町外の方がクーポンを使うことについてですが、このクーポンが利用できるのは町内のお店のみとなっています。そのため町外の方が、町内に来て買い物をしていただいたことで、経済的な効果があったと考えています。

今後の実施については、現在、来年度予算案を、庁内で協議検討しているところであり、今の時点では明言出来ない状況です。

以上